



2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年1月31日

上場会社名 日本空調サービス株式会社 上場取引所 東名
コード番号 4658 URL <https://www.nikku.co.jp/>
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 依藤 敏明
問合せ先責任者（役職名） 執行役員経理部長（氏名） 横井 智明（TEL） 052-773-2511
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2025年3月期第3四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年12月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	44,187	11.5	2,658	12.3	2,877	12.2	1,843	10.1
2024年3月期第3四半期	39,617	12.5	2,367	61.5	2,565	56.2	1,675	64.8

（注） 包括利益 2025年3月期第3四半期 2,270百万円（10.5%） 2024年3月期第3四半期 2,054百万円（91.3%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	53.51	52.96
2024年3月期第3四半期	48.81	48.18

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第3四半期	44,830	25,012	55.0
2024年3月期	42,949	24,212	55.5

（参考） 自己資本 2025年3月期第3四半期 24,677百万円 2024年3月期 23,829百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	15.00	—	24.00	39.00
2025年3月期	—	20.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	20.00	40.00

（注） 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	61,000	4.8	3,700	1.9	3,900	1.0	2,800	2.7	81.48

（注） 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更に関する注記)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期3Q	35,784,000株	2024年3月期	35,784,000株
② 期末自己株式数	2025年3月期3Q	1,261,538株	2024年3月期	1,421,638株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2025年3月期3Q	34,454,194株	2024年3月期3Q	34,314,940株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー： 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(会計方針の変更に関する注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに回復しております。鉱工業生産は、在庫調整の進展を背景に電子部品・デバイスが回復したことから増産となった一方で、台風や地震等の自然災害による工場停止、折からの認証不正問題等の影響から、増産と減産を繰り返しており一進一退の状態から抜け出せずにいます。個人消費は、物価高の影響で一部に弱い動きがみられるものの、持ち直しております。

このような経済環境の中、ビルメンテナンス業界においては、省エネや省コストに加え、病院での手術室の無菌化や院内感染の防止、製薬工場や再生医療研究所等のバリデーションサポートといった高度な技術力に対し関心が高い状況です。

当社グループにおいては、サービスを提供する現場でのお客様との接点を最重要視し、当社のノウハウを活かした「設備及び環境診断・評価」「ソリューション提案(省エネ・省コスト提案、環境改善提案)」を通じてお客様の潜在ニーズの掘り起こしに努め、お客様の事業活動におけるサステナビリティに寄与すべく、新規物件の獲得や既存契約の維持に取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は44,187百万円(前年同期比11.5%増)、営業利益は2,658百万円(同12.3%増)、経常利益は2,877百万円(同12.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,843百万円(同10.1%増)となりました。

なお、当社グループは、建物設備のライフサイクルに合わせて、メンテナンスサービスとリニューアル工事を一体化した事業活動を展開しており、当該事業以外の事業について重要性が乏しいことから、報告セグメントを単一としております。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は25,269百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,117百万円減少しました。これは主に受取手形・完成工事未収入金等が3,210百万円減少し、棚卸資産が1,200百万円、現金及び預金が456百万円、電子記録債権が404百万円それぞれ増加したことなどによります。固定資産は19,560百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,998百万円増加しました。これは主に建物及び構築物(純額)が2,157百万円、土地が1,037百万円、投資有価証券が603百万円それぞれ増加し、建設仮勘定が850百万円減少したことなどによります。

この結果、総資産は44,830百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,881百万円増加(4.4%増)しました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は13,423百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,069百万円減少しました。これは主に支払手形・工事未払金等が1,375百万円、未払法人税等が379百万円それぞれ減少し、電子記録債務が568百万円、1年内返済予定の長期借入金が469百万円それぞれ増加したことなどによります。固定負債は6,394百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,150百万円増加しました。これは主に長期借入金1,933百万円増加したことなどによります。

この結果、負債合計は19,818百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,080百万円増加(5.8%増)しました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は25,012百万円となり、前連結会計年度末に比べ800百万円増加(3.3%増)しました。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の55.5%から55.0%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、不安定な国際情勢や物価の高止まり等が続き、依然として先行き不透明な状況で推移するものと予想しております。

当社グループの中核事業である建物設備メンテナンスは、外部要因の変動に需要が左右されにくい面はあるものの、その重要な補完的役割を担う建物設備工事につきましては、お客様の設備投資計画に一定程度依存しております。設備投資の不確実性は依然として懸念され、当社グループの事業活動に影響を及ぼす可能性があります。

足元の事業環境につきましては、経済情勢の様々な制約を受けるものの、国内外ともに環境保全に関心が高まっている昨今におきましては、省エネや省コスト等に関する顕在及び潜在ニーズの高い状況が継続していると考えられます。また、2024年3月期に続き、2024年5月13日付「給与水準の引き上げに関するお知らせ」にて公表のとおり、当社は2024年4月に全正社員を対象として、平均6.5%の給与水準の引き上げ（ベースアップ、定期昇給及び職種手当改定、2024年3月期は平均6.8%の給与水準の引き上げ）を実施しております。給与水準の引き上げは人件費の増加に繋がりますが、当社最大の財産である従業員に対する重要な人的資本投資であると考えております。本施策を実施することで、社員のエンゲージメントが高まり、モチベーションの維持・向上による人的資本の価値向上が実現され、お客様への更なる高品質サービスの提供、ひいては社会全体の価値向上に繋がるものと考えております。

このような経営環境の中、当社グループは、「お客様に安心感を与える最適な環境を維持するために、技術力と人的資源を結集させ、高品質サービスを提供する」という経営理念に基づき、お客様との接点を最重要視し、ニーズを見極めた上での「設備及び環境診断・評価」「ソリューション提案（省エネ・省コスト提案、環境改善提案）」に注力することで、建物設備メンテナンス及び建物設備工事の受注拡大を図ってまいります。

また、当社グループの付加価値創出力を更に向上させるため、太陽光発電事業をはじめとした省エネ提案ツールの拡充による製造工場等へのアプローチ強化、バリデーションサポートによる医薬品製造施設等への深耕開拓、新たな空間除染手法による医薬・医療施設等への新規開拓、海外展開の拡大と強化を加速させることで、お客様の事業活動におけるサステナビリティに寄与し、更なる社会的価値の創造を進めてまいります。

以上の取り組みを推進することにより、2025年3月期の連結業績予想は、売上高61,000百万円（前連結会計年度比4.8%増）、営業利益3,700百万円（同1.9%増）、経常利益3,900百万円（同1.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益2,800百万円（同2.7%増）としております。

なお、今後の見通しにつきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。今後の業況変化等により、業績予想の修正が必要になった場合は、速やかにお知らせいたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,989	7,445
受取手形・完成工事未収入金等	16,676	13,466
電子記録債権	1,137	1,541
棚卸資産	703	1,903
その他	882	914
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	26,387	25,269
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,923	5,080
土地	4,480	5,517
建設仮勘定	1,195	344
その他(純額)	1,220	1,267
有形固定資産合計	9,819	12,210
無形固定資産		
ソフトウェア	44	43
その他	18	24
無形固定資産合計	62	68
投資その他の資産		
投資有価証券	5,902	6,505
その他	782	782
貸倒引当金	△5	△5
投資その他の資産合計	6,679	7,282
固定資産合計	16,562	19,560
資産合計	42,949	44,830

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	5,787	4,412
電子記録債務	2,099	2,667
短期借入金	870	950
1年内返済予定の長期借入金	259	729
未払金	404	284
未払費用	2,472	2,285
未払法人税等	815	435
役員賞与引当金	62	-
受注損失引当金	86	22
その他	1,635	1,635
流動負債合計	14,492	13,423
固定負債		
長期借入金	578	2,511
役員退職慰労引当金	98	110
執行役員退職慰労引当金	40	45
退職給付に係る負債	3,176	3,193
資産除去債務	67	67
その他	283	465
固定負債合計	4,244	6,394
負債合計	18,737	19,818
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,139	1,139
資本剰余金	1,163	1,170
利益剰余金	19,176	19,502
自己株式	△875	△775
株主資本合計	20,603	21,037
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,297	3,697
為替換算調整勘定	46	38
退職給付に係る調整累計額	△118	△94
その他の包括利益累計額合計	3,225	3,640
新株予約権	205	146
非支配株主持分	177	187
純資産合計	24,212	25,012
負債純資産合計	42,949	44,830

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	39,617	44,187
売上原価	32,232	35,289
売上総利益	7,384	8,897
販売費及び一般管理費	5,017	6,239
営業利益	2,367	2,658
営業外収益		
受取利息	11	12
受取配当金	117	158
保険配当金	9	1
為替差益	42	40
その他	30	26
営業外収益合計	211	238
営業外費用		
支払利息	6	16
貸倒引当金繰入額	3	-
その他	3	3
営業外費用合計	13	20
経常利益	2,565	2,877
特別利益		
固定資産売却益	5	0
特別利益合計	5	0
特別損失		
固定資産売却損	-	0
固定資産除却損	1	7
関係会社出資金売却損	0	-
特別損失合計	2	7
税金等調整前四半期純利益	2,568	2,870
法人税等	885	1,019
四半期純利益	1,682	1,850
非支配株主に帰属する四半期純利益	7	7
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,675	1,843

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期純利益	1,682	1,850
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	260	399
為替換算調整勘定	81	△4
退職給付に係る調整額	29	24
その他の包括利益合計	371	419
四半期包括利益	2,054	2,270
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,034	2,259
非支配株主に係る四半期包括利益	20	11

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。従来、所得等に対する法人税、住民税及び事業税等(以下、「法人税等」という。)について、法令に従い算定した額を損益に計上することとしておりましたが、所得に対する法人税等について、その発生源となる取引等に応じて、損益、株主資本及びその他の包括利益に区分して計上することとし、その他の包括利益累計額に計上された法人税等については、当該法人税等が課される原因となる取引等が損益に計上された時点で、これに対応する税額を損益に計上することとしました。なお、課税の対象となった取引等が、損益に加えて、株主資本又はその他の包括利益に関連しており、かつ、株主資本又はその他の包括利益に対して課された法人税等の金額を算定することが困難である場合には、当該税額を損益に計算しております。また、親会社の持分変動による差額に係る連結財務諸表固有の一時差異について資本剰余金を相手勘定として繰延税金資産又は繰延税金負債を計上していた場合で、当該子会社に対する投資を売却し、一時差異が解消した際の繰延税金資産又は繰延税金負債の取崩しについて、従来、対応する額を法人税等調整額に計上することとしておりましたが、資本剰余金を相手勘定として取り崩すこととしました。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過措置及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日)第65-2項(2)ただし書きに定める経過措置に従っており、適用初年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の適用初年度の累積的影響額を、適用初年度の期首の利益剰余金に加減するとともに、対応する金額を資本剰余金、評価・換算差額等又はその他の包括利益累計額のうち、適切な区分に加減し、当該期首から新たな会計方針を適用しておりますが、当該期首残高に与える影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

当社グループは、国内各拠点及び海外において、建物設備のメンテナンス・維持管理、設備及び環境診断・評価、ソリューション提案(省エネ・省コスト提案、環境改善提案)を行うメンテナンスサービスとそれらサービスを提供する現場から派生するリニューアル工事を手がけ、建物設備のライフサイクルに合わせて、メンテナンスサービスとリニューアル工事とを一体化した事業活動を展開しております。また、太陽光発電による売電事業を展開しております。

なお、売電事業については重要性が乏しいことから、メンテナンスサービスとリニューアル工事とを一体化した事業を単一の報告セグメントとし、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	290百万円	335百万円